

### 3-12 茨城県八郷町および山梨県甲府市における3成分ひずみ計による観測結果(1992年5月~10月)

Results of Continuous Observation by Borehole Three-component Strainmeters  
at Yasato, Ibaraki and Kofu, Yamanashi (from May to October, 1992)

防災科学技術研究所

National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

茨城県八郷町および山梨県甲府市に設置されている3成分ひずみ計による連続観測結果を前報<sup>1)</sup>に引き続き報告する。今回もドリフトを経験式で近似し、観測値からドリフトを除いた残差を報告する。甲府観測点における10月中はほぼ1ヶ月の欠測は、テレメータ不調によるものであった。計算式は従来と同様に次のような指数関数と一次関数の和として近似する。

$$y = A \exp(-t / \tau) + Bt + C$$

3成分ひずみ計の各成分についての係数A,  $\tau$ , Bを第1表に示す。これらは、前報に掲載したものと同一である。Bについては、現実との相違が大きくなっていったため、前回大きく変更している。前々回まで使用した値はカッコ内に示す。各成分の名付け方を第1図に示す。第2図には、このようにして求めた経験式による計算値と日値の観測値とを上下に並べて示す。支配的な変動は、ボアホール壁面のクリープ的な迫り出し等によるほぼ等方的な変動である。

第3図に、八郷の1982年10月以降の日観測値からドリフトを除いた残差を示す。この半年間顕著な地殻ひずみ変化はみられない。同様に第4図に、甲府の1987年6月以降の日観測値からドリフトを除いた残差を示す。ここでも特に顕著な変化は認められない。

第5図に1992年5月から半年間の八郷の観測値からドリフトを除いた残差を示す。特に、目立った変化は見られない。

第6図に甲府の同様のものを示す。日雨量100mm以上の降雨時における急激な収縮が目立つ程度である。

(坂田正治)

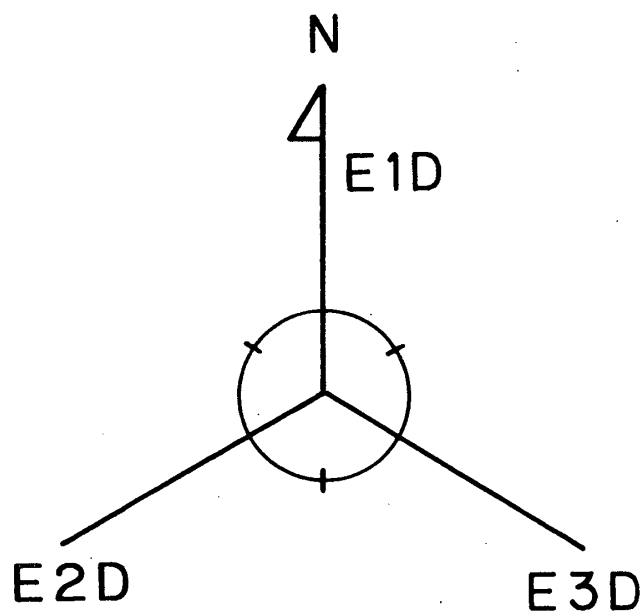
#### 参 考 文 献

- 1) 防災科学技術研究所：茨城県八郷町および山梨県甲府市における3成分ひずみ計による観測結果(1991年11月~1992年4月), 連絡会報, 48(1992), 189-194.

第1表 3成分ひずみ計各成分のドリフト係数（前回までのBの値をカッコ内に示す）

Table 1 Coefficients describing long-term drifts observed by borehole three-component strainmeters (former B values are shown in parentheses).

観測点 成分名	八郷2号機			甲府		
	E1D	E2D	E3D	E1D	E2D	E3D
A [ $\mu$ strain]	24.0	25.0	20.0	10.4	11.0	12.4
$\tau$ [day]	655	655	585	198	179	194
B [n strain/day]	-3.3 (-4.3)	-3.3 (-4.3)	-3.7 (-4.9)	-1.8 (-4.9)	-1.8 (-4.5)	-3.2 (-7.9)



第1図 3成分ひずみ計各成分の名前。各成分は3成分ひずみ計の観測値（隔室の断面積変化）を各方向の線ひずみに変換したもの。

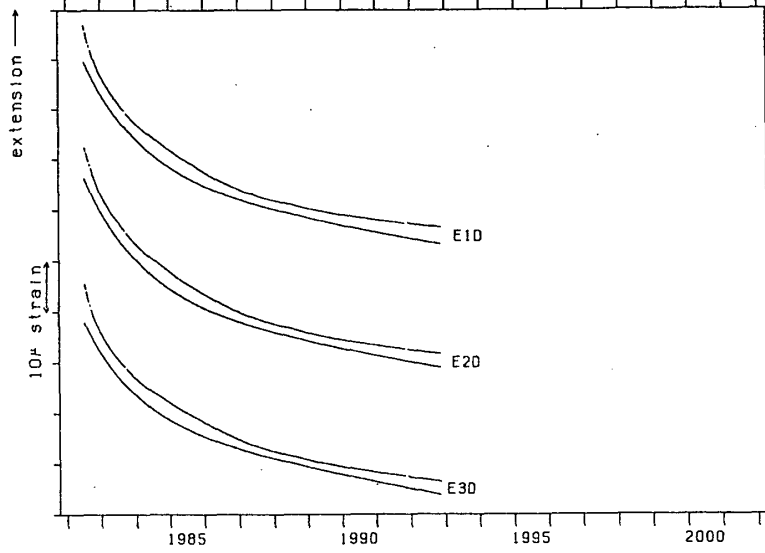
Fig. 1 Nomination of three strain components. They are calculated from observed section area changes of three chambers of a strainmeter.

NIED

APE SYSTEM  
DAILY VALUE

YST2 STRN (E10, E20, E30)

1982/07/01 00:00 - 1992/10/31 00:00

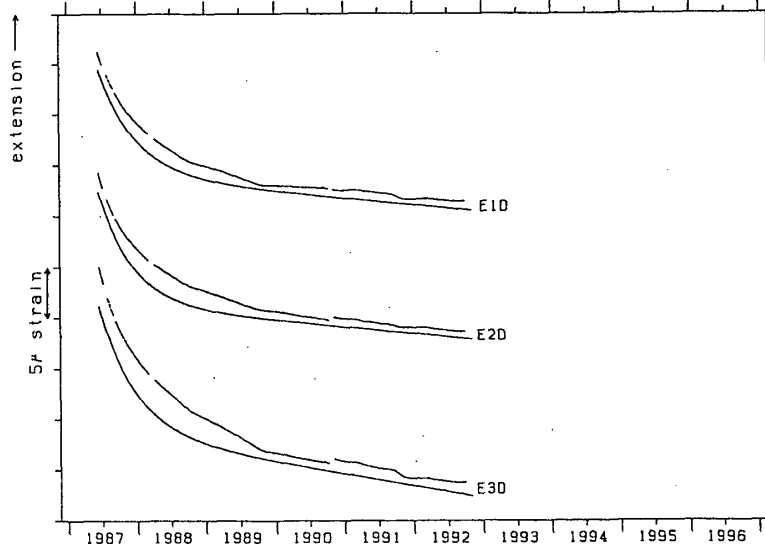


NIED

APE SYSTEM  
DAILY VALUE

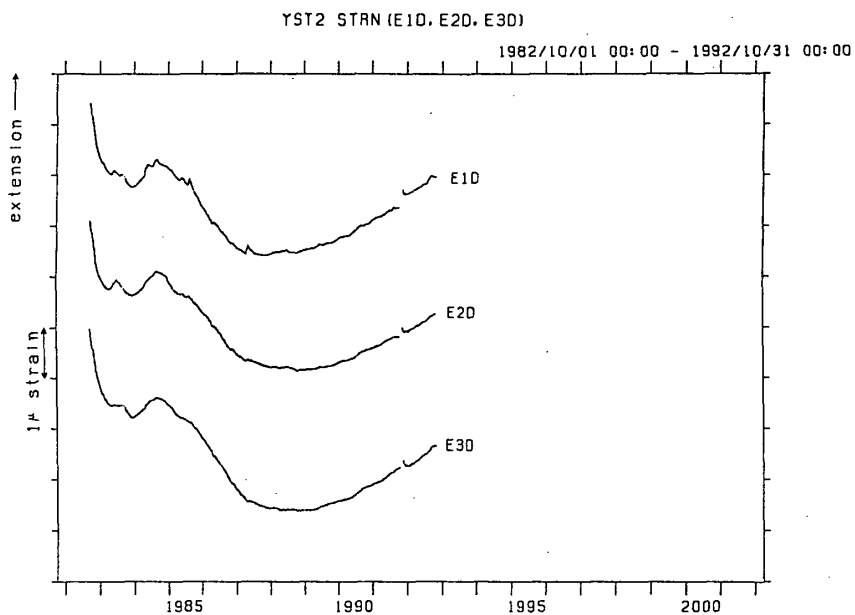
KFU STRN (E10, E20, E30)

1987/01/01 00:00 - 1992/10/31 00:00



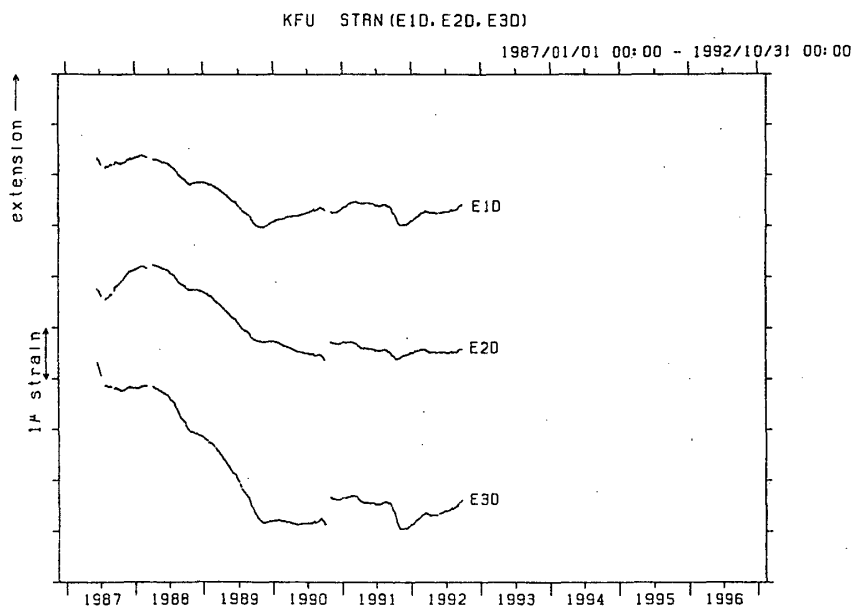
第2図 八郷 (YST 2) および甲府 (KFU) の日値観測値 (各ペアの上方) と計算値 (各ペアの下方)

Fig. 2 Comparison of observed daily strain changes (upper) and calculated drift values (lower).



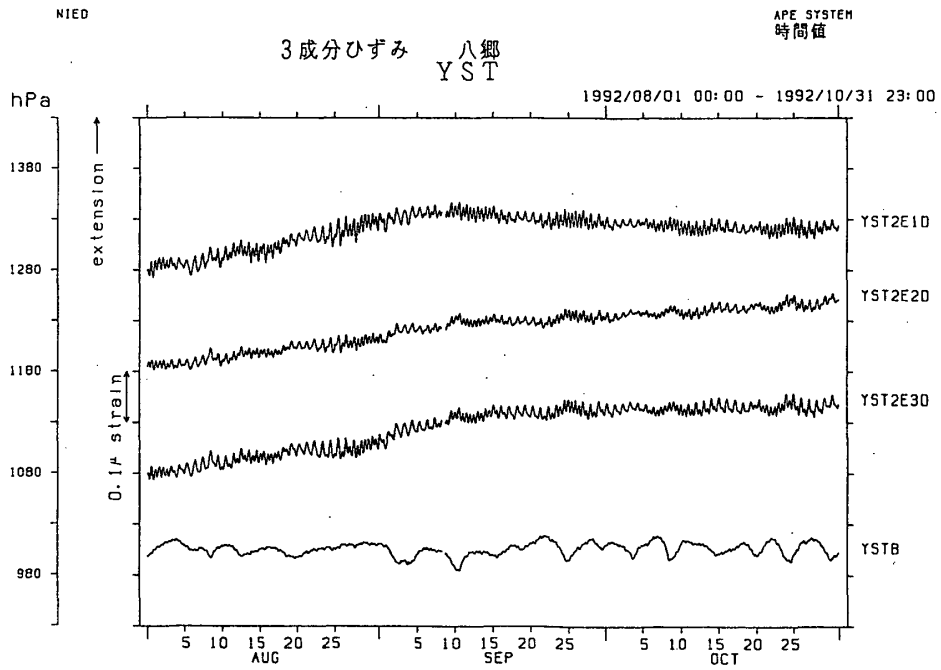
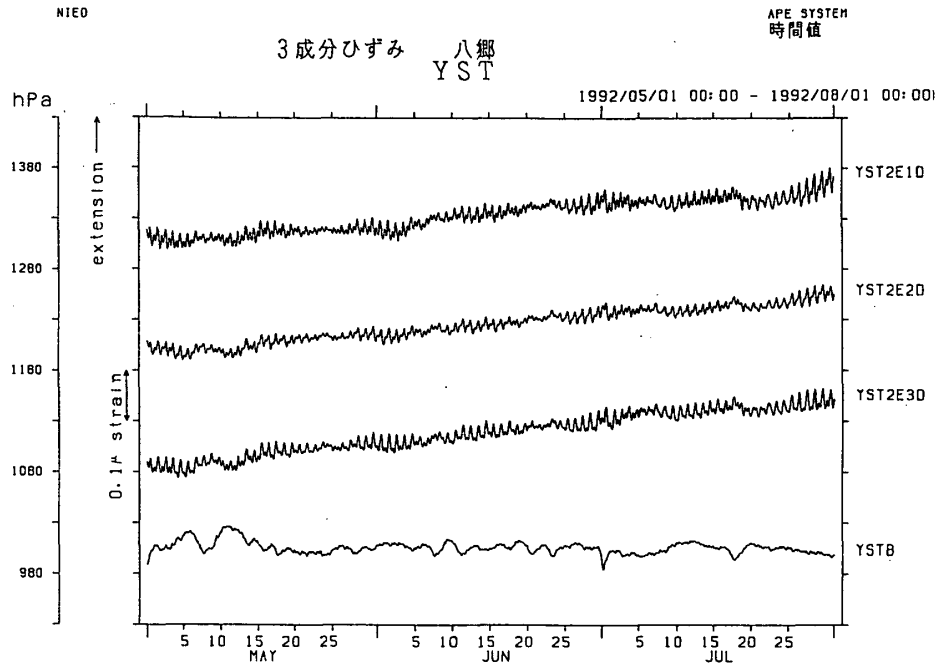
第3図 八郷観測点の1982年10月以降の日値の観測値から計算値を除いた残差

Fig. 3 Residual strain changes (daily value) obtained by subtracting calculated drift values from the observed strain changes at Yasato.



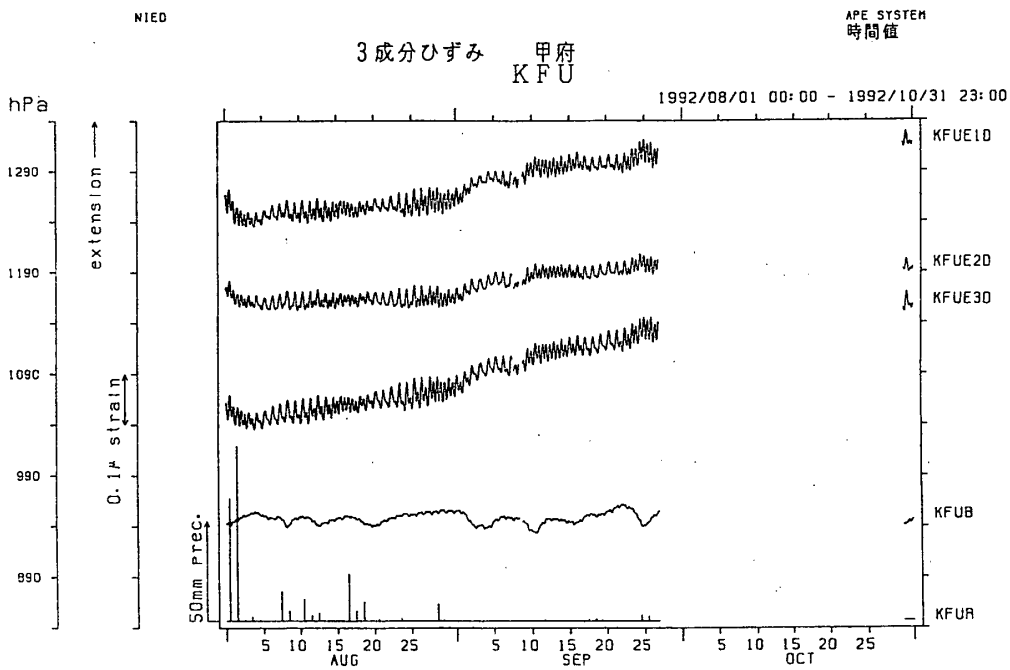
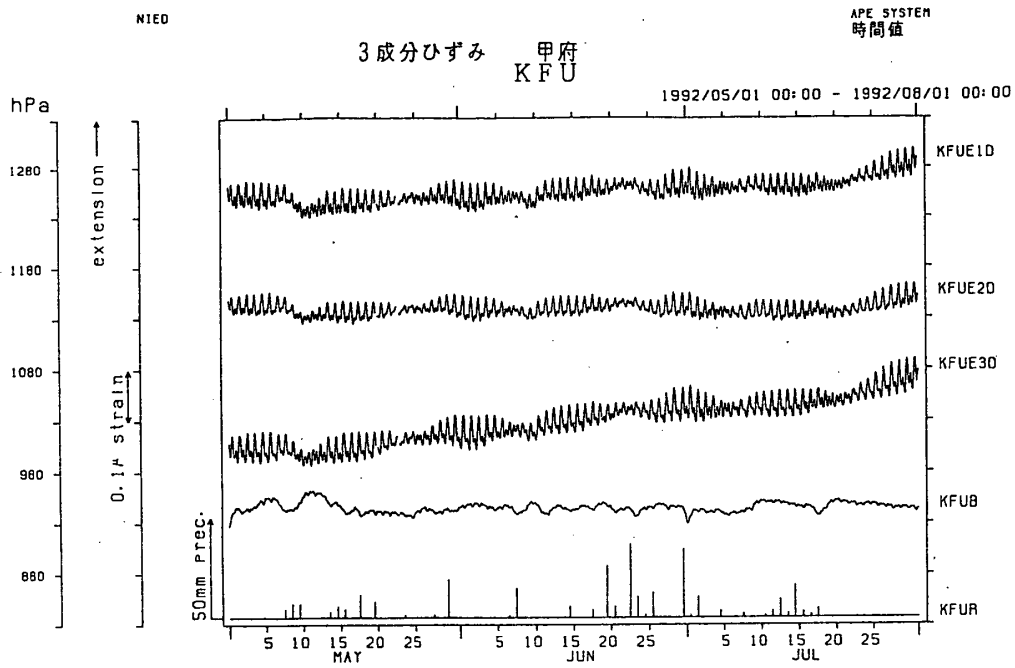
第4図 甲府観測点の1987年6月以降の日値の観測値から計算値を除いた残差

Fig. 4 Residual strain changes (daily value) obtained by subtracting calculated drift values from the observed strain changes at Kofu.



第5図 八郷観測点における時間値の観測値からドリフトを除いた残差

Fig. 5 Residual strain changes (hourly value) obtained by subtracting calculated drift values from the observed strain changes at Yasato.



第 6 図 甲府観測点における時間値の観測値からドリフトを除いた残差

Fig. 6 Residual strain changes (hourly value) obtained by subtracting calculated drift values from the observed strain changes at Kofu.